

きりづまの居場所

ー 公園のアイコンとなるマチの集会所 ー



きりづま屋根のもとマチの新たなアイコンとなる

設計方針

地域の誇り・居場所となるマチの集会所

篠原園地内の新たなアイコンとなる集会所を提案します。

1. 公園内施設として親しみやすさを感じる建物外観
2. 様々な施設利用者の居心地の良さに配慮する集会所
3. 多様な利用者の居場所として寄り添うトオリドマ

これらの要素を中心に、地域住民や公園の一施設として、愛着や活用意欲がわく空間性を備えた計画とします。

本提案は、これからの集会場モデルとして、地域の誇り・居場所となる拠点施設を目指します。

外観計画

シンボリックでかわいらしい切妻屋根の小屋

高低差がある園内の比較的高い場所に位置する敷地から、離れたところからでも目に留まるようなシンボル性があり、かわいらしい切妻屋根の外観とします。

また、暖かみを感じられ、公園への親和性を高める素材感や色味を選定していきます。

集会室の計画

活動がにじみ出す快適で心地良い大空間

多くの人々が利用する集会所は、風が心地よく流れ、ほどよく採光が差し込む居心地の良い空間を目指します。室内からは園内が見下ろせる大きな窓を設け、開放性の高い空間としつつ、外からは内部の様子がうかがいやすいことで、地域の活動に親しみやすい構成とします。

トオリドマの計画

行為のバッファースペースとして機能する軒下空間

来園者の一休みの場や集会所利用者のゆったりとした出入口のたまり場、公衆トイレの前室など、様々な使い勝手に対して効果的に機能する軒下空間としてトオリドマを計画します。併設する防災倉庫が有事の際に効果的に機能する十分な広さを確保します。

断面計画

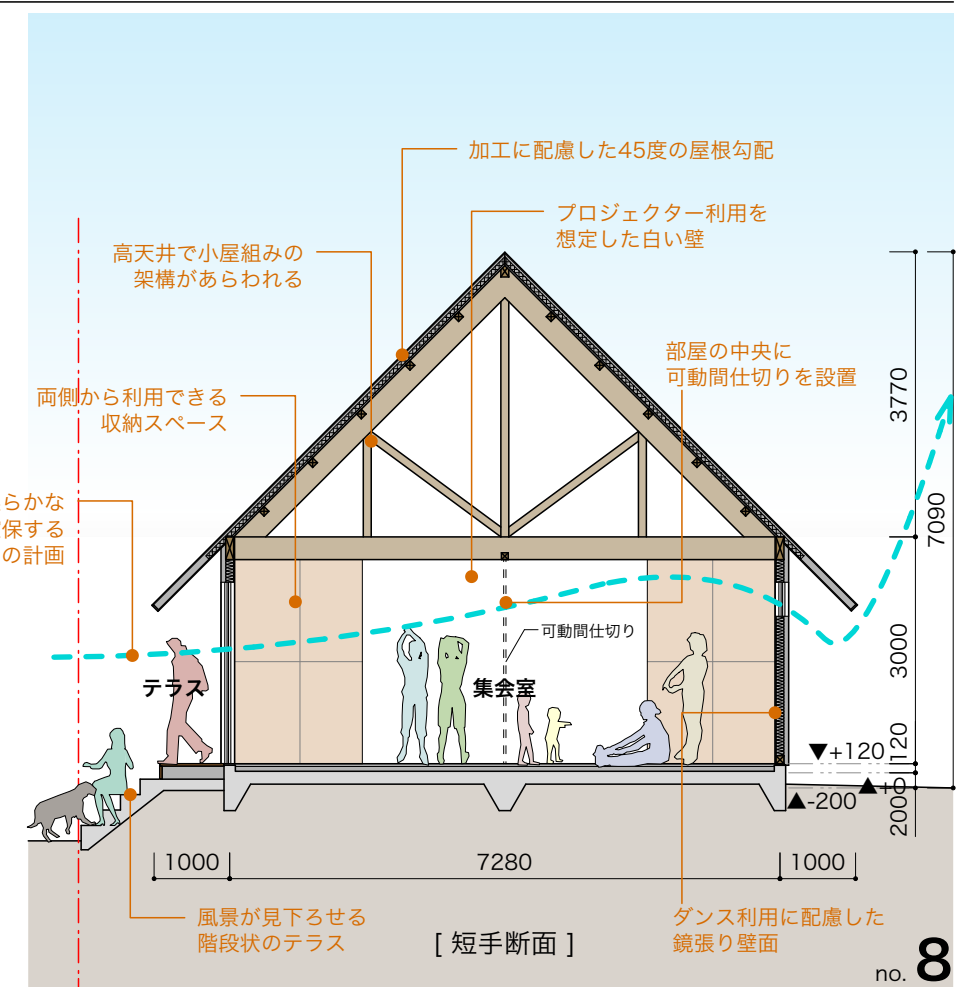
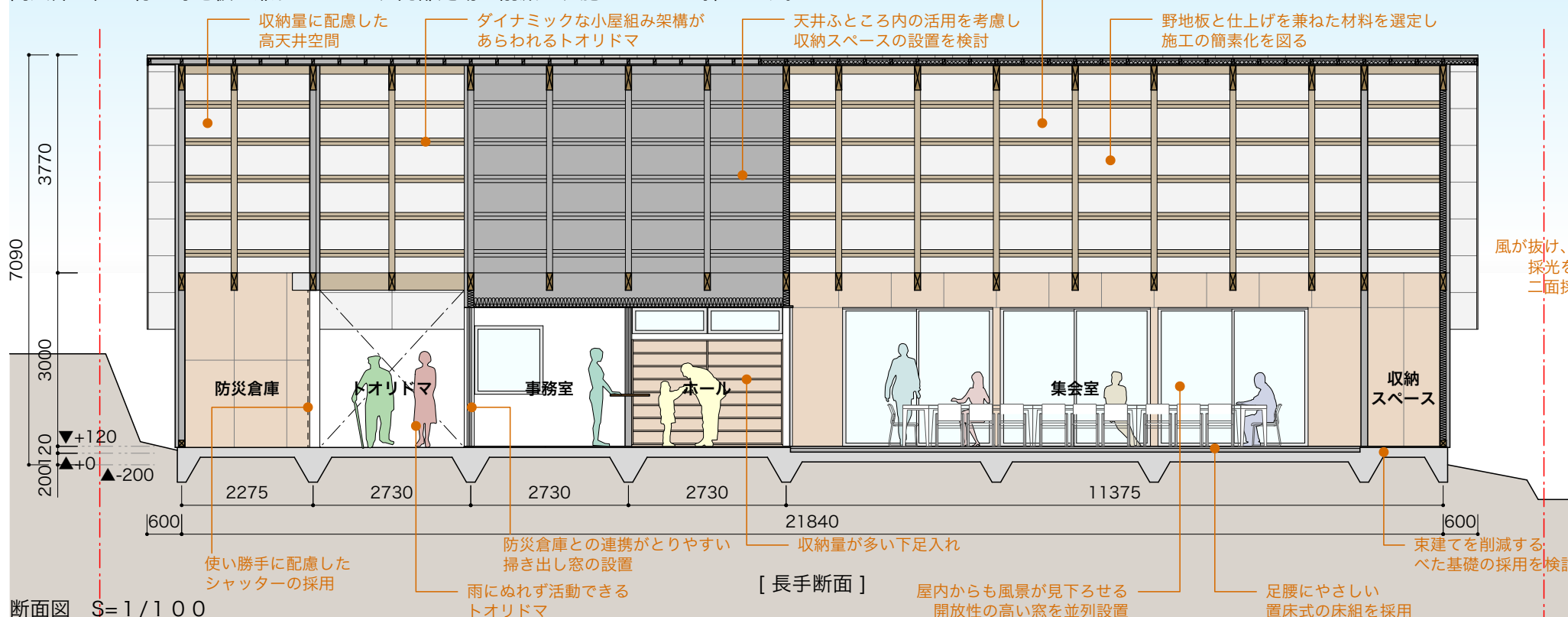
木架構があらわれるダイナミックな空間

集会室やトオリドマ、防災倉庫は木架構があらわれるダイナミックな空間とします。

在来軸組構法の構造計画とし、小屋組みにより屋根を支える計画とすることで、材料を一般流通材に限定します。

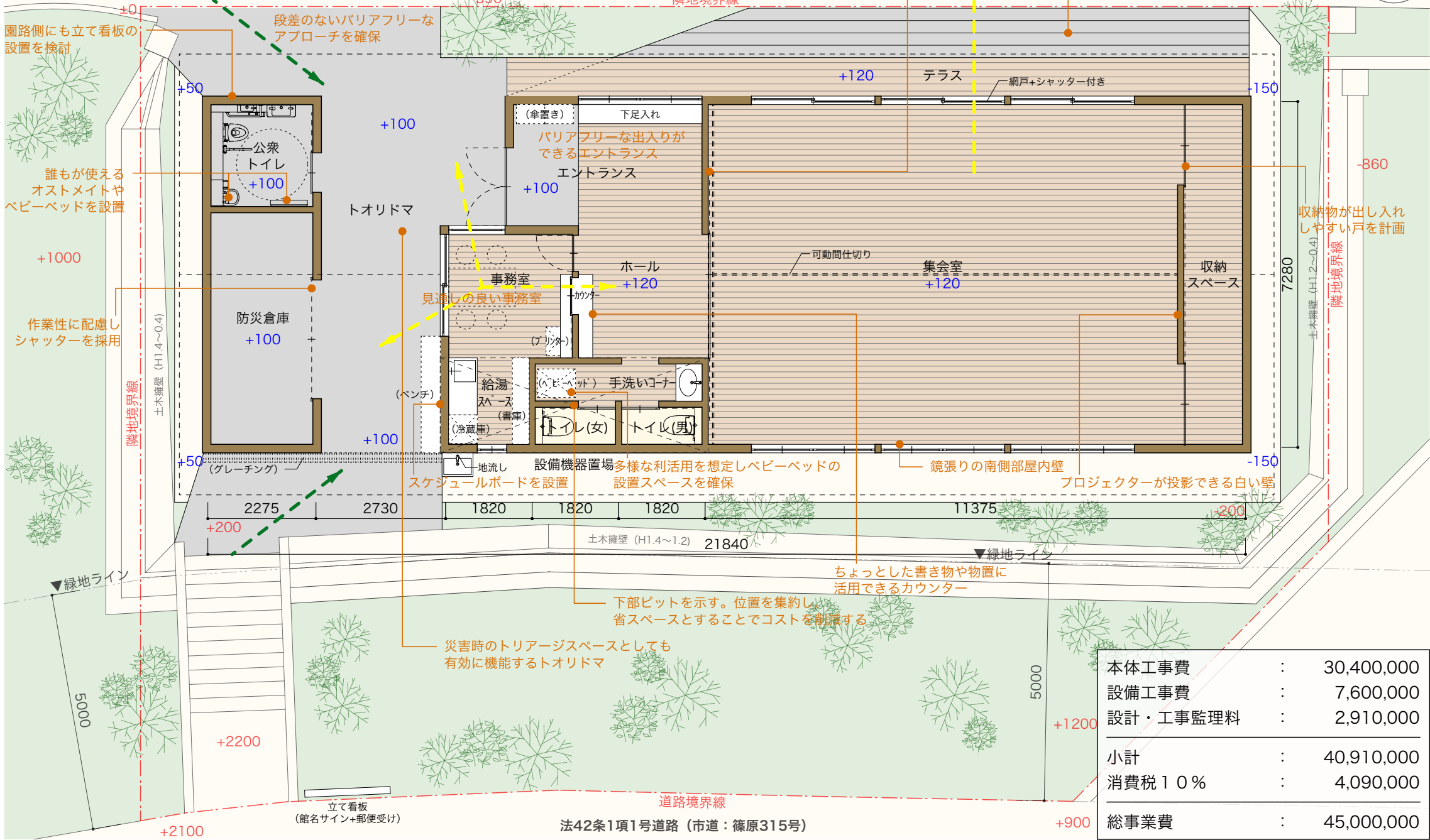
屋根の勾配は45度とすることで、プレカットによる加工に配慮し、コスト削減を図ります。

高天井の仕上材は野地板と兼ねることで、内部足場を削減し、施工コストを抑えます。



起伏のある敷地で誰もが利用できるバリアフリーな計画

市道側からアプローチする他、園路側からバリアフリーでトオリドマへアプローチできる計画とします。
また、園路沿いに階段状のテラスを設けることで、園内を見下ろしながら一休みができる場を提供します。
トオリドマを境に、西側に公衆トイレ・防災倉庫、東側に集会所機能を分けて配置することで、日常時でも非常時でも、それぞれの活用に支障なく、連携がとりやすい構成とします。

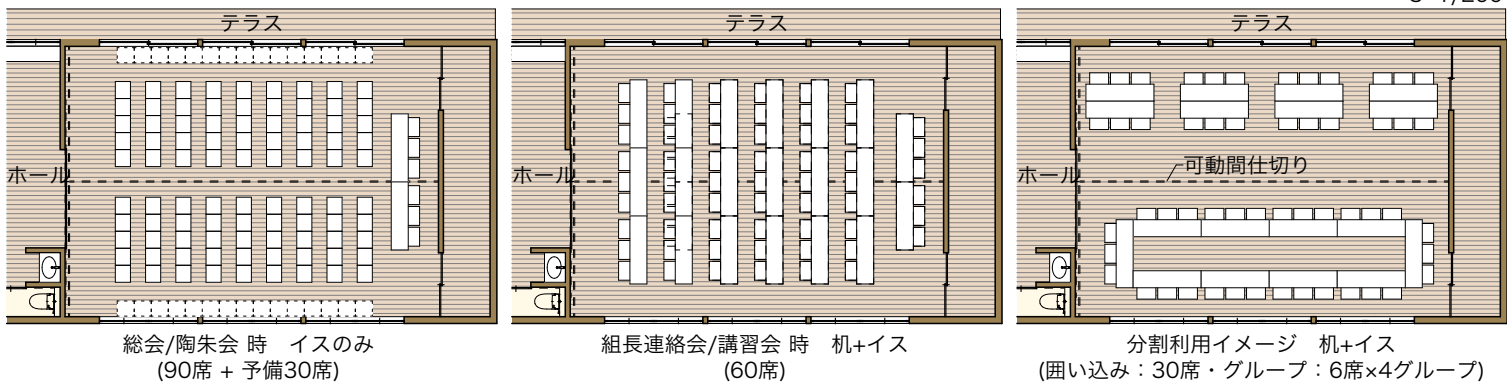


集会室の自由度

様々な利用形態にあわせた活用ができる空間性

既存施設で活用されていた利用形態の他、卓球やダンスといったスポーツ活動、映画のミニ上映会など、多様な使い方ができる空間性を備えた集会室とします。

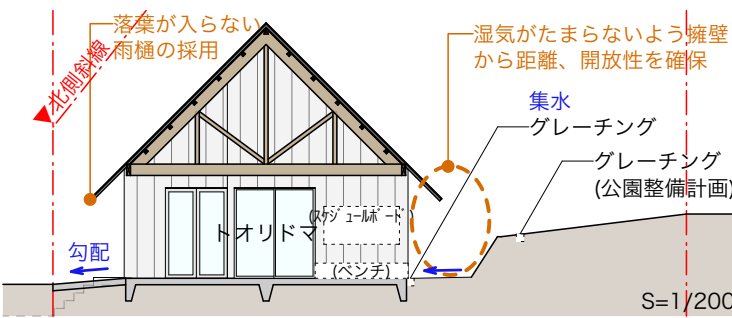
スポーツ利用に配慮し、置床式のフローリング仕上とすることで足腰にやさしい仕様とします。



高低差のある地盤に対する雨水処理の計画

トオリドマの出入口を除き、建物外周はFLより低いレベルに地盤面を擦り付ける計画とし、雨水が建物から遠ざかる方向へ流れるよう配慮します。

トオリドマの南側出入口は手前にグレーチングを設置し、出入口内に雨水が流れ込まないよう計画します。



日常と非日常のよりどころとなる施設計画

マチの集会所施設として、安全性・快適性・機能性を備えた施設計画とします。

- ・ 構造計画では、耐震等級3の取得を目指します。
 - ・ 省エネ性能はZEH水準取得を目指します。
 - ・ 防音、維持管理に配慮した仕上材を選定します。
- ※別途、太陽光発電設備・蓄電池の設置を協議、検討します。

【建築概要】

敷地面積：402.73m²

[主要な設備]

空 調：エアコン、換気扇
電 気：LED照明、集合スイッチ
通 信：無線LAN設備（空配管）
音 響：スピーカー設備
防 犯：防犯カメラ、防犯灯、
シャッター

【 主な仕上材 】

屋根：カラーガルバリウム鋼板

外 壁：再生材活用窯業系サイディング

開口部：複層サッシ

床 : コンクリートスラブ

フローリング(一部ビニル床シート)

壁 : ビニルクロス貼り(一部木質アクセント)

シナベニヤ(※WS

井：ビニルクロス貼

木毛セメント板

市營計画 _____

 $7, 4$

みんなとつくるこれからのマナの目次云集云所
設計、監理者として、活用できる建設士の取得や住戸参

ワークショップを開催することで工事を補填、削減します。
ワークショップは、壁・家具・建具の塗装や端材を活用したアクセントボードの製作などを企画することで、住民自らが係わり、建築に対する愛着や親しみにつながる試みとします。

